

福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



足羽山にて中村幸世・吉澤康暢撮影(2006、2007年)

福井の自然史情報

足羽山を彩る秋の果実

実りの秋には、足羽山でもちょっと歩くだけで様々な実を見つけることができます。 じっくり見ると、同じ赤色の実でも房状だったり、塊状だったり。 なかなか見分けにくい植物も、目につきやすい実や球果から

親しんでみてはいかがでしょうか。





に使いやすい実 足羽山



足羽山で見られる鳴く虫たち

(学芸員:梅村信哉)



■鳴き声: **リューリュー** ■体 長: 15~24mm

1898年に中国からの進入が確認された 外来昆虫で、1970~80年代に日本国内 で分布を急速に広げました。街路樹に 依存して生活し、足羽山でもソメイヨシ ノなどの樹の上で鳴いています。



■鳴き声: コロコロリー ■体 長:26~40mm

日本で最大のコオロギで、足羽山でもその美しい声がよく聞かれます。野菜や小 昆虫の死骸を餌とし、畑で姿を多く見か けます。



■鳴き声: リリリリリ ■体 長:17~20mm

晩秋まで鳴き声が聞かれます。ツツレサセは漢字で「綴刺せ」と書き、昔の人は、この虫の鳴き声が聞こえると、近づく冬に備えて着物を繕う(綴る)必要があると感じた(鳴き声が「着物を綴れ」というように聞こえた)のが名前の由来とか。家の中に入ってきて鳴くこともあります。



■鳴き声: スイーッチョン ■体 長: 28~36mm

福井県にはハヤシノウマオイとハタケノウマオイという2種のウマオイがいます。これらは外見で区別するのは難しく、ハヤシノウマオイはスィーッチョン、ハタケノウマオイはスィッチョ・スィッチョという鳴き方の違いが区別のポイントになります。



■鳴き声: **ジリリ、ジッジッ** ■体 長: 45~50mm

ヤブにすむキリギリスなのでこの名前があります。足羽山では7月頃から成虫の姿が見られます。日本からは5種のヤブキリの仲間が記録されていますが、分類学上の整理がまだついていません。



■鳴き声: **ガチャガチャ** ■体 長:50~70mm

クツワムシには茶色いものと緑色のものがいます。足羽山では西墓地周辺や麓のクズの茂った場所でその大きな鳴き声が聞かれます。



■鳴き声:チチチチ、ジーチョ

■体 長:35mm

ツユムシの仲間は日本には24種、福井県内には9種が分布しており、このうち足羽山からは5種が確認されています。 ツユムシの仲間は鳴き声が小さく、慣れていないと聞きとることが難しいです。



■鳴き声:ピンピン、チッチッチチ

■体 長:42~58mm

ツユムシの仲間。クダマキとはクツワム シのことで、クツワムシに似た虫という のが名の由来です。秋に鳴く虫の多くは 鳴くのがオスだけですが、クダマキモド キの仲間はメスも鳴くと言われています。



■鳴き声: チンチンチン■体 長: 9~12mm

鐘をたたくようにチンチンチンと鳴くので、この名前があります。オスの翅はとても短く鳴くためのもので飛ぶことはできません。足羽山ではアジサイなどで姿が見られ、鳴き声は一日中聞かれます。

東太平洋の二枚貝の王者、メキシコハマグリとの遭遇

山口 正士 (ルミナス・ヒムカ水生生物研究所・農学博士)

自

I "7

新潟県、柏崎市に出現したハ マグリ(佐藤・山口, 2010)に ついて報告を取りまとめるため、 文献参照だけでなく、各地の博 物館に収蔵されている日本海産 のハマグリ類についての確認を 行った。ハマグリ類に種の鑑定 エラーが多く、記載情報を鵜呑 みにできないためである。

インターネットで調べ、福 井市自然史博物館に収蔵され

た貝類の標本目録 を発見した。日本 海産ハマグリ類に 関する情報が限ら

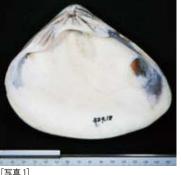
れ、実物標本も少ないので、 同博物館の膨大な貝類コ レクションがかなり期待 できると思われた。目録 では標本数が分からない まま、メールでハマグリ 類の「全」標本の貸し出し をお願いしたら、送られ てきた大きな二つの段ボ

ール箱を見てびっくり。厳重な包装を 解き、点検する作業を開始して真っ先 に眼に入った大きな貝殻[写真1]のラ ベルにはチョウセンハマグリとあった (FKC6001、産地不詳)。その殻長は 13.93cm, 殻重量589.7gで、ずしりと 重く、他のハマグリ類の標本とは桁違 いの迫力である。

このように巨大なチョウセンハマグ リは収集している実物にも記録にもな い。鈴間(1991)が日向市の碁石ハマグ リ、つまりチョウセンハマグリについ て記している殻長12.8cmが最大であ る。大変な怪物が出てきたものだと驚 き、しかしながら違和感があったので 調べてみて、メキシコハマグリ(Tivela stultorum) が誤認されたものと判明した。 その原産地は北アメリカの太平洋沿岸 で、カリフォルニア南部からメキシコ にかけてである。ハマグリ属に近縁な グループの貝で、最大で約20cm。宮

間漁獲量が6万ポンド前後(約30トン) の水産重要種であった(Weymouth, 1923)が、その後は激減してしまった。

文献ではメキシコハマグリの稚貝の 様子が全くわからない。チョウセンハ マグリと比較するため、カリフォルニ ア州政府にお願いして稚貝から成貝ま でのシリーズとなった標本をいただい た[写真3]。太平洋の向こう側の砂浜環 境に適応したメキシコハマグリは、荒 波が寄せる砂中で貝殻を厚くして、重









[写真3]

[写真 1] 福井市自然史博物館古川コレクションFKC-6001、殻の内側

[写真2] 碁石製作用のメキシコハマグリの殻、はまぐり碁石の里(宮崎県日向市)で購入

[写真3] アメリカ、カリフォルニア州シルバー・ストランド・ステイト・ビーチで2007年までに採集されたメキシコハマグリの貝殻標本

崎県日向市の碁石製造販売店ではその 貝殻を売っている。この貝殻を丸い円 盤状に切り取って、磨き上げて白碁石 としている[写真2]。地元のチョウセン ハマグリが枯渇して以降は、このメキ シコハマグリが代用品とされている。

メキシコハマグリは "Pismo Clam" と呼ばれ、チョウセンハマグリと同様 に波の荒い砂浜に生息し、カリフォル ニア州の南部の海岸で1910年代に年 量を重くすることで姿勢を安定させる ようである。メキシコハマグリは水管 が短く、砂底の表面スレスレに潜って いるため砂の移動の影響を受けやすい。 小さい時はチョウセンハマグリとそっ くりな姿であるが、メキシコハマグリ の稚貝についての生態は報告されてい ない。とにかく荒波が渦巻く砂浜海岸 での生態調査はとても難儀な仕事だか らであろう。

参考文献 ◎佐藤俊男・山口正士 (2010) 新潟県柏崎で発見されたハマグリについて 一柏崎産ハマグリは、どこからやってきたのかー 柏崎市立博物館館報,第24号,p.111-136. ◎鈴間愛作(1991)日本最高級品囲碁石目向ハマグリ談 一延岡市理学博士 宿屋寿先生をしのんでー 福井市立郷土自然科学博物館研究報告,第38号,p.85-88.

《あとがき》-

今年の1月、メールでのご依頼で、博物館のハマ グリの仲間の標本を宮崎県の山口先生に貸し出し ました。その数なんと100個以上!当館には貝類 標本がたくさんあるぞと自負していたけれど、1 つの仲間でも日本各地の標本がこんなにあるなん て!梱包やチェックの面倒臭さ(すみません)に勝 る感動でした。60年以上前という、今では確認し 難い各地での生態を示す貴重な標本たちです。(今 回のエッセイの内容とは別ですが)標本は研究の お役にもたてたようで、嬉しい限りです。これも 地方都市としては早い時期に設立された博物館の 本領発揮といったところでしょうか。時間も手間 もかかるけれど、これからもきちんと標本を整理・ 保管していかなければいけないなと思いました。 (安曽)

《交诵案内》

【電車】

福井鉄道福武線 公園口駅 徒歩20分

【バス】

コミュニティバスすまいる:西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩 10分

京福バス運動公園線 (70号系統) 久保町バス停 徒歩 15分 【徒 歩】

JR福井駅から徒歩30分

《ご利用室内》

開館時間 千前9時~午後5時15分(入館は午後4時45分まで) 休 館 日 月曜日(祝休日は開館)、国民の祝休日の翌日、 年末年始

入館料 高校生以上100円(20名以上の団体は半額) 中学生以下、70歳以上、

障害者および付添の方は無料



